

上 田 勉

東芝 原発損失 7,125 億円 債務超過、解体の危機 優良事業切り売り

「世界の原発メーカーはある時期に、東芝子会社の米ウェスチングハウス (WH)、日立製作所と米ゼネラル・エレクトリック (GE)、三菱重工業と仏アレバ、ロシアのロスアトムに集約された。これに中韓が加わる。

ふくしまの原発事故後、窮地に陥ったのがまずアレバ、そして東芝・WH。共通するのは「3 世代プラス」と呼ばれる新型炉の建設が引き金となった点だ。

理由は簡単。安全性を追求した新型炉を造れば当然コストも上がる。そこに原発事故の影響による安全規制強化が加わり、さらにコストを押し上げた。世界原子力協会の推計では欧米の原発建設コストはこの 20 年間弱で 2~3 倍。大量生産でできず 40 年も使い続ける原発で安全性向上と低コスト化は両立しないのだ。

「東芝にも独シーメンスのように早く（原発から）撤退する選択肢がありえた」。そう指摘するのはエネルギー産業に詳しい橘川武郎・東京理科大教授だ。それができなかったのは「原子力にウエートをかけ過ぎて民間企業の意味だけで動けなくなったため」。となるとまだこの先は？ 「西側に原発メーカーを残したいと言う日米仏政府の思惑で事が進む可能性がある」と推測する。

確かに東芝が WH をうまく切り離せるかはまだこれから。日本政府には東芝救済に乗り出す意向もあるようだ。一方、日仏は今週的首脳会談で原子力分野の連携で合意。三菱重工と日本原燃がアレバ救済に約 300 億円ずつ出資することも決まった。

とすると事故当事国で最も苦しい日本が米仏の原発ビジネスまで支える？ 最近の政府のやり方を見ればそのコストがやがて国民負担になる懸念も拭えない。原発守って国滅びる。そんなことだけは無いように。」（青野由利専門編集委員「毎日新聞」17 年 3 月 25 日付け）

衰退する世界の原発産業 原発産業は儲からない 原発輸出に奔走するのは日本だけ

東芝は、平成 30 年 3 月末で債務超過になれば、総合建設業（資本金 2000 万円以上）の免許の更新が出来なくなります。福島第一原発の廃炉の作業は、東京電力・東芝・日立の技術者や作業員によって、行われています。もしも、東芝が免許の更新が出来なければ、廃炉の作業にも大きな影響を与えます。

原発事業から原発産業が撤退すれば、原発の廃炉はいったい誰が責任をとるのか？

アレバ (仏)	4 期連続赤字
シーメンス (独)	原発事業から撤退、自然再生エネルギー事業に転換 (エライ！)
GE (米)	原発事業に見切り、シェールガス発電事業を強化
東芝	原発事業 建設部門から撤退、生産部門だけに
日立	原発新事業から撤退、損失 700 億円計上
三菱重工業	米原発事業で 140 億円を賠償、アレバに 300 億円を出資

【家電の新製品の多くが東芝 栄光の歴史に包まれた 東芝本社(東京都港区浜松町)】



【ふくしま原発事故下での捜索 (福島県立博物館 展示)】



【原発被災地を巡るツアー】(いわき駅集合・解散、費用約1万円)
(第4回) 7月29日(土)～30日(日) 1泊2日【相馬野馬追】
参加希望者は 上田 まで メールにて